

講義名	経営情報分析			授業形態	
担当教員	木村 敏夫／木村 敏夫		開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限	
			単位数	2	履修開始年次
主題と概要					
経営情報分析は、学科目として「既存の枠組」みは存在しない。講義の目的は、「企業」（会社）の経済的意思決定（経済的資源配分）に求められる経営事象に対して合理的な判断を行う方法を学ぶ。受講生は、「課題」として配布される所与の経営事象に体现したデータから、各自が経営事象を判断する資料を作成し、結論を下す、ことを講義目標とする。 経営情報分析の講義は、企業の事業活動に関するデータ、数値資料（財務・事業指標、例えば、販売量・生産量、売上高、固定費・変動費、店舗数、営業利益・経常利益・総資本・株主資本、有利子負債等）に対して、「表計算」（MS-EXCEL）を利用し、論理・財務・統計等の関数（関数組合）、線形計画、What-if分析、分析ツール、ソルバー等を使用して数理的な処理を行い、データを分析し、予想される数値の資料を作成し、「経済的」結論を下す方法〔事業（事業の集合体が会社）成果の計画（予測）・測定：分析、評価（検証）〕を学ぶ。					
到達目標					
企業の事業活動に関連して（定量・定性）「情報」（資料）、を主に、表計算（MS-Excel）の統計・財務・論理等の関数、分析ツール、ソルバー、What-ifを使用して数理的な処理を行い、回帰分析等を行い、加工し、評価し、企業の次年度予測値（見積損益計算書等に集約）等の資料を作成し、これに一定の結論を下す。したがって、情報の取得、加工、経済的意思決定に資する提言を作成することができると。					
提出課題					
講義時間内で毎回の課題（13から14回）を予定している。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
翌週講義前半に講評する。					
評価の基準					
出席（50％）と課題提出（50％）で評価する。但し、1）出席と2）提出回数の双方を2/3を超えなければ単位認定はできない。また、各提出課題は、講義中以外は認めない。					
履修にあたっての注意・助言他					
学修には経営、財務、会計、統計、表計算（MS-EXCEL）の知識が前提となっている。 特に「単位取得」を目的として履修することは避けるべきである。毎年、半数以上の履修者が途中放棄する。自ら、作業などをやらなければ結果はでないと考えてもらいたい。課題はポータルに開示する。 処理方法の考え方はプリントを配布する。配布プリントに準拠して各自が課題を処理する。					
教科書					
.配布プリント.					
参考図書					

その他		
相澤裕介『統計処理に使うExcel2019活用法』カットシステム 岡部生司『Excelで学ぶ会社の数字を知って伸ばすー統計解析』ソシム 伊藤公一朗『データ分析力の力・因果関係に迫る思考法』光文社新書 今里健一郎・森田博憲『Excelでここまでできる統計解析』日本規格協会 太田廣信『Excelで学ぶ企業ファイナンス』Omssha 田中勝等『統計学リテラシー』信風館 寺田裕司『データを「見える化」するExcelデータ分析大辞典』C&R研究所 森崎初男『経済データの統計学』Omssha 浦井良幸・真美『多変量解析がわかる』技術評論社		
授業計画		
第1講 情報と統計分析「イントロダクション」 第2講 情報「データ」の集計・抽出、検定－関数、ピボット等 第3講 情報の相関関係・分析 第4講 相関・回帰分析と予測Ⅰ 第5講 相関・回帰分析と予測Ⅱ 第6講 相関・回帰分析と予測Ⅲ 第7講 回帰分析と検定Ⅰ 第8講 回帰分析と検定Ⅱ 第9講 資本調達、返済計画と利子率計算Ⅰ 第10講 資本調達、返済計画と利子率計算Ⅱ 第11講 最適資源配分Ⅰ（線形計画） 第12講 最適資源配分Ⅱ 第13講 財務情報と損益分岐推測 第14講 シナリオ登録と損益分岐情報－費用、価格、利益と売上高の関係分析 第15講 販売価格、費用分解と費用削減の関係分析		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
☐ ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
事前に講義課題を配布する。講義テーマに関連して課題を各2時間、計4時間を必要とする。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
企業経営に求められる情報を分析することから、特に経営戦略、会計コースを念頭に、データ取得から分析に関連する。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
講義時は常時双方向で行っている。		
実務経験の有無及び活用		
備考		